

# 管内経済情勢報告

平成15年4月、財務部では管内経済情勢報告を次のとおり取りまとめました。

最近の管内経済情勢をみると、個人消費は、底堅く推移している。住宅建設は、前年を下回っているものの、公共事業は、前年を上回っている。また、十五年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

観光は高水準で推移している。

こうした中、企業活動をみると、生産は一部に動きがみられるものの、全体として低調な動きとなっている。十四年度通期の企業収益は、増益見込みとなつており、十五年度上期についても増益見通しどとつていて。企業の景況感は、現状は「上昇」超に転じ、先行きは「上昇」超幅が縮小する見通しとなっている。

なお、雇用情勢は依然として厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。

このように、管内経済は、一部に厳しいことは残るもの、観光は高水準で推移しており、全体として持ち直しの動きが続いている。

個人消費をみると、百貨店は大型スーパー出店の影響が続いていることもあって前年を下回っているものの、主要スーパーは新規出店効果や主力の飲食料品が堅調などから前年を上回っているほか、コンビニエンスストアも前年を上回っており、底堅い動きとなっている。

耐久消費財では、家電製品販売はプラスマ・液晶テレビなどが好調なことも



その2

## 財務部

あつて前年を上回っている。自動車販売は、新車販売は引き続き小型乗用車が好調なことから、前年を上回っているほか、中古車販売も前年を上回っている。このように、個人消費は、底堅く推移している。

観光をみると、観光入込客数は、三月まで七ヶ月連続月間記録を更新するなど、高水準で推移している。

主要ホテルの客室稼働率、客室単価、客単価ともに前年を上回っている。

観光関連施設の入場者数は、高水準である入込み客や、美ら海水族館の効果から前年を大幅に上回っている。

このように観光は高水準で推移している。

十五年度上期は、製造業で「減益」として、非製造業で「増益」として、十四年度通期は、製造業で「増益」として、非製造業で「減益」として、このことから、全産業では「増益」見込みとなっている。

住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、持家、賃貸等で前年を下回っていることから、全体でも前年を下回っている。新設住宅の着工床面積も前年を下回っている。

資金別の着工戸数では、民間資金、公共資金ともに前年を下回っている。

設備投資をみると、十五年度は全産業で前年を下回る計画となっている。

設備投資をみると、十五年度は全産業で前年を下回る計画となっている。

公共事業を公共工事前払保証請負額でみると、県、市町村等で前年を下回っているものの、国等で前年を上回っていることから、全体でも前年を上回っている。

生産活動をみると、建設資材関連では、アルミニウム、生コン、棒鋼、セメントとも前年を下回っている。また、食料品では、発泡酒、食肉加工品、泡盛は前年を上回っているものの、ビール、パン・めん類が前年を下回っている。

このように、生産活動は一部に動きがみられるものの、全体としては低調な動きとなっている。

企業収益（石油、電気・ガスを除く）をみると、十四年度下期は、製造業で減益とみているものの、非製造業で大幅な「増益」とみていることから、全産業では「増益」見込みとなっている。

十五年度上期は、製造業で「減益」として、非製造業で「増益」として、十四年度通期は、製造業で「増益」として、非製造業で「減益」として、このことから、全産業では「増益」見込みとなっている。

企業倒産をみると、件数は前年を下回っているものの、負債金額は、大型倒産の影響もあり前年を上回っている。

雇用情勢をみると、完全失業率は依然として高水準で推移しているものの、こへきてやや改善の動きがみられる。

有効求人倍率も改善の動きがみられる。

新規求人件数は一月に復帰後最高を更新したほか、県外からの受求人件数も増加を続けている。また、就職件数も増加している。

消費者物価をみると、被服及び履物など多くの費目で下落傾向にあることから、全体でも引き続き弱含んでいい。

金融面をみると、設備資金、運転資金ともに前年を下回っている。

みると、県外向けが好調だったことから、全体として前年を上回っている。

表-1 個人消費…底堅く推移している

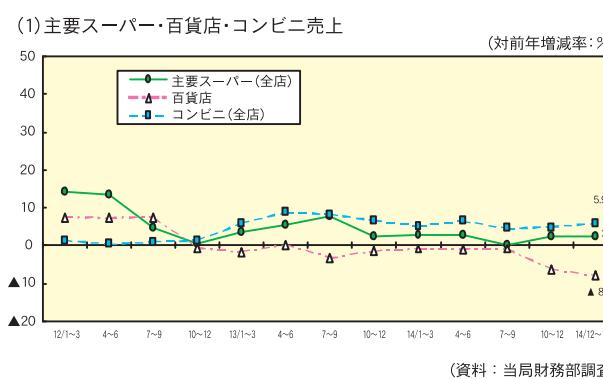


表-2 観光…高水準で推移している

